



2025 年招收攻读硕士学位研究生入学考试试题

招生专业与代码：日语笔译 055105

考试科目名称及代码：翻译硕士日语 213

考生注意：所有答案必须写在答题纸（卷）上，写在本试题上一律不给分。

※答题纸书写要求：选择题请按照一下格式答题。

例：1. _____ 2. _____ 3. _____ 4. _____ 5. _____
6. _____ 7. _____ 8. _____ 9. _____ 10. _____

一、語彙（1 点×10 問=10 点）

問 1 次の文の下線をつけた言葉の読み方を A、B、C、D から一つ選びなさい。

1. 吉田さんは営業の仕事に携わっている。
A かかわって B たずさわって C たまわって D ことわって
2. 他人はごまかせても、自分を欺くことはできない。
A なつく B おもむく C きずつく D あざむく
3. 店をいくつも経営しているので彼の生活は潤っている。
A やしなあって B うやまあって C うるおって D うしなあって

問 2 次の文の下線をつけた言葉の漢字を A、B、C、D から一つ選びなさい。

4. 彼は上司の命令を受けてアフリカへおもむいた。
A 赴いた B 趣いた C 働いた D 歩いた
5. 人の機嫌をそこねる発言は控えたほうがいい。
A 束ねる B 委ねる C 損ねる D 重ねる
6. 子供のいたずらをいましめる。
A 咎める B 宥める C 舐める D 戒める

問 3 () に入れるのに最も良いものを A、B、C、D から一つ選びなさい。

7. 新しい技術を使えば、これまでの大気汚染問題が () 解決するだろう。
A 一新に B 一挙に C 一概に D 一向に
8. () な道を追い求める者は、決して大事業を成し遂げることができない。
A 用意 B 簡易 C 容易 D 安易
9. ゴミの不法投棄を () 解決してほしい。
A どうにも B どうか C どうか D どうやら
10. 会社には周りに () することで安心感を得る人も多い。
A 順調 B 同調 C 協調 D 調合

二、文法 (1点×20問=20点)

()に入れるのに最も良いものをA、B、C、Dから一つ選びなさい。

11. 新しい家を買うために行ったが、夜の()日当たりのことは分からなかった。
A こととて B ことでは C ことには D こととして
12. あの人は天才作家だから、わずか五日間で傑作を書いたらと言って、驚く()。
A ことがない B すべきでない C に違いない D にはあたらない
13. ノーベル賞を受賞した彼は、学生時代、劣等生だったという、あの人()そうなのだから、我が子が劣等生だからと言って深刻に悩む必要もない。
A に対して B にして C によって D ともなると
14. この映画はストーリーの面白さ()、主題曲も大ヒットになって評判となっている。
A ものか B ものを C もさることながら D もさることがある
15. 北京大学合格の連絡が入ったとたんに、彼はあまりの嬉しさに()ばかりだった。
A 飛び上がらん B 飛び上がっている C 飛び上がる D 飛び上がり
16. 車がなければ、歩いていく()。
A べきなことだ B はずなことだ C までのことだ D ことのことだ
17. 健康()美容ですから、無理なダイエットはしないほうがいいですよ。
A とあって B あつての C のゆえの D こととて
18. 自慢する()が、私は小学校入学以来今まで、一度も学校を休んだことがない。
A ほかにはいない B ほどのことではない C べくもない D までもない
19. 本当のことを話さなくてはいけないと思いつつ、今日も言い()。
A がたい B そびれた C たえる D ひかえる
20. 漫画()、アニメ()、映像作品を作る際に大切なことは、感動的なシーンには言葉を入れないことだ。
A であれ、であれ B でもない、でもない
C はもとより、はぬきにして D はさておき、はというと
21. ()ことを言ってしまって、彼を傷つけてしまった。
A 言うまでもない B 言うことはない C 言うべくもない D 言わずもがなの
22. 明日、最終面接()いるので、今日は早めに寝ることにした。
A を限りに B をもって C を控えて D を踏まえて
23. 店員の対応()、お客様の不満がクレームに発展する可能性がある。
A のこととて B となると C のいかんでは D だけに
24. 人手が足りない()、商品の生産がなかなか注文に追いつかない。
A からといって B こともあって C としても D 甲斐があつて
25. 学生「山田先生、卒業のテーマについてご意見を()。」
先生「いいですよ。じゃ、明日の午後2時、研究室に来てください。」
A お聞かせいたしませんか B お聞かせ願えませんか
C お聞かせなさいますか D お聞かせになりますか
26. 不景気の波は中小企業()、大手企業にまで及んだ。
A にかかわらず B にすぎなくて C にととまらず D に及ばず

27. 書類選考に（ ）面接の機会を与えてもらえない。
A 通ったとしても B 通ってからでない
C 通ってからというもの D 通るとしたら
28. 彼はエレベーターに入る（ ）、重量オーバーのベルが鳴りだした。
A かたわら B か否か C たびに D や否や
29. いろいろ頑張ってきた友達の成功を（ ）。
A 祈ってはいけない B 祈ってやまない
C 祈ってはかなわない D 祈ってはばからない
30. 今の時代に、一流企業に入れば安定した人生が約束されている（ ）。
A ということはない B というものはない C というわけではない D というはずはない

三、読解 (40 点)

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

選択問題 2 点×10 問=20 点；記述問題 4 点×5 問=20 点

文章 I

旅に出た時、どうして人はお土産を買うのだろうか、自分をも含めての話だけれども。或いは言いかえて、旅のお土産というのは誰のためのものであろうか、としてもいい。さてその問いへの答えだが、まずお土産をお土産として考えるかぎり、それは誰かへのお土産だから、他人のためだということになるだろう。ところでお土産のことを英語ではスーヴェニアという。この場合のスーヴェニア=思い出は、明らかに他人のためではなくて、自分のためのものであろう。そうだとすると、①お土産とスーヴェニアはもつ意味が違ったものになる。

ところで、とくに旅において思い出が問題になるのは、未知のところ、珍しいところを訪れることが多いからでもあるが、実はそれにもまして、楽しい自分の過去がそこにあるからであろう。そのような過ぎ去ったかつての自分をふたたび現前(注：眼前)させ、それによっておのれのアイデンティティ(自己同一性、存在証明)を確認することができるからであろう。アイデンティティとは自分が自分であることにほかならないが、あらためてそれを根拠づけようとする、なかなか難しい。自分が自分であることを根拠づけるためには、少なくとももう一つ別の確実な自分、存在感のある自分がどうしてもなければならない。なぜなら、そのもう一つの自分との関係のなかで、はじめて、自分が自分であることが根拠づけられるからである。

旅券(パスポート)による「身分証明」の場合は、その一番分かりやすい例である。パスポートを持って外国を歩いている時ほど妙に自分が日本政府と結びついていること、日本という国家に帰属していることを感じさせられることはない—②そういう思いをしたことのある人は少なくないだろう。

さて国(政府)が発行するパスポートは、照合のための写真を貼付することで、世界中のどこの国にいても、国籍と本籍から自分が自分であることを証明してくれる。それは心理的、精神的なアイデンティティ=自己同一性ではなくて、外的、現実的な自己同一性にかかわるものではある。けれども、身分証明書=アイデンティティ・カードとしての旅券を落したり盗まれたりした場合のことを考えれば、精神的と現実的という自己同一性の区別はそれほど決定的なものではないことがわかる。自分が自分であることを公的に証明するものが失われる時、人はいわば顔のない生活を強いられかねないし、そのときの不安はたちまち精神的な自己同一性を脅かしてくるからである。

まことに旅においては、私たちは実にいろいろな意味、いろいろな形で、自己同一性、自分が自分であることが問われるのである。そして旅をメタファー(注： 隠喩)とする私たちの一生には、節目をなすいくつかの時期があって、それらの時期をきちんと通過することが人間としての自己確立=アイデンティティ強化のために必要なものと考えられている。すなわち、「通過儀礼」と呼ばれているものがそれにほかならない。

(中村雄二郎『知的旅の誘い』による)

31. なぜ①お土産とスーヴェニアはもつ意味が違ったものになるというか。
- A お土産は自分で買うもの、スーヴェニアは他人がくれるものだから。
 - B お土産は他人にあげるもの、スーヴェニアは自分のためにあるものだから。
 - C お土産はお金のかかるもの、スーヴェニアはお金のかからないものだから。
 - D お土産の本質は精神的なもの、スーヴェニアの本質は物質的なものだから。
32. 旅とアイデンティティとの関係について本文と一致しないのはどれか。
- A 過ぎ去った過去の自分を現前させることでアイデンティティが確認できる。
 - B 旅の思い出は楽しい自分の過去がそこにあるということの証明である。
 - C 未知または珍しい場所への旅はアイデンティティを確認しやすいのである。
 - D 自分が自分であることを根拠づけるために、旅はいい機会である。
33. ②そういう思いとはどういう思いか。
- A パスポートを持って外国へ出た時、自分が日本という国に帰属していることを一番強く感じることに。
 - B パスポートを持っている時にこそ自分の国籍をきちんと確認することができることに。
 - C パスポートを持って外国を歩いている時は自分と日本という国との関係についてそれほど考えることはないことに。
 - D パスポートを持って外国へ渡る場合、よく自分はどのような存在なのかという問題で悩むことに。
34. この文章によると、どのように自分のアイデンティティを確認したほうがいいのか。

文章Ⅱ

現代の都市生活者の存在感情の底にあまねく静かに浸透してきているように思われる「寂しさ」、①それが、いま、だれかと「つながっていたい」というひりひりとした疼きとなって現象しているのではないだろうか。電車のなかで互いに別の世界の住人であるかのように無関心で隣り合っているが、指を器用に動かして次から次へとメールを打つシーンには、②このような気持ちが痛いくらいに感じられてならない。

人がおそらく最初に求めるのは、③自分が、あるいはその存在が「肯定されて」あるという感情だろう。

緊密に、そして大規模にシステム化された都市社会というのは、「資格」が問われる社会である。人々の生活の細部まで支えているシステムを維持するために、④それにふさわしい行動の能力が求められる。システムが複雑化するというのは、そういう行動能力に複

雑なプロセスが要するということでもある。今日では幼稚園に通う前から教育は始まり、そこから最低でも十数年教育は続くというのが、まさにその能力育成の必要性に応じた結果にほかならない。

「資格」が問われるというのは、もしこれができれば、次にこれができる……という
ことだ。⑤そこでは何をしても条件が問われる。そして条件を満たしていなければ
「不要」の烙印を押される。だから、自分の子どもが将来こういう惨めなことにならない
ように、親たちはずいぶん幼いころから教育をうけさせる。「これをちゃんとやらなかった
らこんどの日曜日に遊園地に連れて行ってあげませんよ。」から「こんな点数をとるのはお
れの子じゃない。」までいろんな脅迫の言葉を向けながら、だ。「もし~でなければ」という
条件のもとで、自分の存在が認められたり認められなかったりするという経験を、子ども
はこうして繰り返してゆくことになる。自分の存在は人に認められるか認められないかで、
あたりなったりする、そういうものなのだ、という感情を募らせてゆくのだ。これを
言いかえれば、自分というものに「なる」途上にいる子どもたちにとっては、⑥自分が「い
る」に値するものであるか否かの問いを、ほとんどポジティブな答えがないままに、恒常
的に自分に向けるようになるということである。

(紀伊国屋書店刊 鷲田 清一著『感覚の幽い風景』による、一部書き換えあり)

35. ①それが、いま、だれかと「つながっていたい」というひりひりとした疼きとなって
現象しているとはどんなことを指しているのか、あなたの理解を述べなさい。

36. ②このような気持ちとは、どんな気持ちなのか。

- A. 矛盾している気持ち B. 両立させようとする気持ち
C. 侘びしく感じる気持ち D. 別世界にいるような気持ち

37. ③自分が、あるいはその存在が「肯定されて」あるという感情とはどんな感情なのか。

- A. 自分が人々に肯定されて存在価値があるという感情
B. いま、だれかとメールでつながっているという感情
C. 自分が肯定されて存在を実感しているという感情
D. 自分を肯定してくれることを最初に求める感情

38. ④それにふさわしい行動の能力とはどんな能力のことか。

- A. 大規模にシステム化する能力
B. 必要な資格を取りそろえる能力
C. システムの維持に必要な能力
D. 人々の生活の細部を支える能力

39. ⑤そこはどこを指しているのか。

- A. 簡単なシステムを持つ都市社会
B. 複雑なシステムを持つ都市社会
C. 気持や感情を重んじる都市社会
D. 教育期間が非常に長い都市社会

40. ⑥自分が「いる」に値するものであるか否かの問いを、ほとんどポジティブな答えが
ないままに、恒常的に自分に向けるようになるとは、どんなことを言っているのか。

文章Ⅲ

そのような人間関係を成功させるためには、いろいろな条件がある。そしてそのいろいろな条件の多くは、実現させることが極めて難しい。しかし、なによりも大事な条件は、心の多元性を認める哲学の立場をとることではないだろうか。

世の中には多様な人間が存在し、多様な心が存在する。心と心の妥協・折衷は常に進行するが、その①さまざまな心が「統一」されることはたぶんありえない。人間世界には、なにがしかの秩序があるようにみえて、実は、さまざまな心が勝手な方向をむいているのである。その無秩序とさえみえる心の多様性を認めることを考えたい。多様性を認める姿勢は、ある考えだけが絶対に正しくて他はことごとく誤りであるというような、頑なな姿勢の対極に立つ。②その姿勢をとった心は「開かれた心」である。その開かれた心が形成されてはじめて、他の心とのまじわり(注：交流)が生まれる。

さまざまな心の多元性を認めるというのは、とりもなおさず(注：不外乎是)、自分の心のなかに多様な自分を並存させているということである。並存させて常に③それをぶつけあうことから創造が生まれ、より豊かな自我が形成されるのである。もちろん、多様な自我の並存のバランスをとることは必ずしも容易なことではない。バランスをとるためには、「こちら側の自分」の統合力が必要だ。だが、その併存と統合のくりかえしに堪える能力こそ、実りの多い人間関係をつくるうえでもっとも大切な条件なのである。

人間関係とは、理解と誤解の絡まりあいである。理解はつねに誤解と抱きあわせである。人間関係という言葉は、なにかしら、つるつる(注：光滑)の、なめらかなイメージを伴う。しかしそのイメージはたぶん正確ではない。人間関係は、そんなにつるつるのものではなく、もう少しごつごつ(注：凹凸)している。摩擦もあるし、かみ合わないところもある。

いわばたいへんな悪路なのである。その悪路にいとむ勇気のある人間だけが、人間関係のなかで自らを開発する資格をもっているのである。

41. 文中の①「さまざまな心が「統一」されることはたぶんありえない」とは？

- A 心と心の統一はおそらくできるはずがない。
- B 心と心の統一はたいていできるべきである。
- C 心と心の統一はたしかに可能性が高い。
- D 心と心の統一はたいてい不可能に違いない。

42. ここの②「その姿勢」とはどんな姿勢か。

- A 統合された二つの姿勢
- B 頑なな姿勢
- C 多様性を認める姿勢
- D 対極に立つ二つの姿勢

43. ここの③「それ」は何を指すのか。

- A 自分の心
- B 多様な自我
- C さまざまな心の多元性
- D より豊かな自我

44. この文章によれば、人間関係を成功させる大事な条件は？

45. 「その悪路にいどむ勇気のある人間だけが、人間関係のなかで自らを開発する資格をもっているのである。」とは、どう理解すればよいか。

四、作文（30点×1問＝30点）

46. AI時代では、数えきれないほどの情報が一瞬手に入ることができ、特に ChatGPT などの出現は、人々の勉強や仕事などに大きな影響を与えた。AI と共存して、強いては生き残るために、考える力をつけるのは大事なことである。これから翻訳の研究や仕事に携わるあなたにとって、どんな思考力を持つべきか、「翻訳者に必要な思考力」を題に、800 字以上で作文を書きなさい。

注意：①普通体（だ・である体）で書くこと。

②漢字を使うべきところは漢字を使うこと。